

# 岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・11 vol.410

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



秋の夕日に映える岩手山と内丸キャンパス  
〈写真撮影：画像情報センター、10月18日（岩手県庁屋上から）〉

## おもな内容

- 連載 電子カルテシステムの導入に向けて② 病院事務部長 柳沢 茂人
- 総合移転整備計画第二次事業 進捗状況 No. 2
- トピックス 内丸キャンパスが「いわて地球環境にやさしい事業所」に認定される
- 表彰の栄誉 歯学部歯科補綴学講座 田邊 憲昌 助教, 歯科衛生部 小野寺 奈津子 歯科衛生士
- 盛岡城跡公園（岩手公園）に歴史を訪ねて

# 電子カルテシステム導入に向けて ②

## —電子カルテシステムにより診療業務が変わります—

病院事務部長 柳 沢 茂 人

診療現場での全ての医療行為は医師、歯科医師の指示から発生します。これまでは医師、歯科医師が診察や指示内容を紙カルテに記載することから始まりましたが、電子カルテでは診察中にキーボードなどから指示を入力し、その指示が電子的に各部署に伝わり、各部署では指示された処置・検査などを行い、その結果を電子カルテに返します。この間のやり取りを医事会計システムが読み取り、患者請求やレセプトに連動させていきます。これらの全ての情報が電子媒体に整理、保存され、電子カルテとなります。

電子カルテの情報を確保するため、現在のオーダリングシステムに比べハード構成が大きく変わります。今回は附属病院に導入予定のハード機器について報告します。



1. 電子カルテ端末 (デスクトップ型 1,000台)

デスクトップ型は主に外来診察室、病棟医師室に整備し主に医師、歯科医師が診察内容の記載、投薬、注射、検査等の指示を入力します。



2. 電子カルテ端末 (ノート型 300台)

ノート型は主に病棟に整備し、医師、歯科医師の指示に基づき、看護師が注射、処置等の実施入力を行います。(ノート型が業務の見直しにより当初計画より増加)



3. 画像診断用モニター (2M高精細カラー液晶モニター 200台)

2M 高精細カラー液晶モニターは、各外来診察室に整備し、医師、歯科医師が全般的な放射線画像情報の診断を行います。



4. スキャナ 100台

スキャナは紙媒体の書類を電子化し保存するために使用します。他医療機関からの紹介状や各種書類が該当します。各診療科や受付にも配置しますが、医科部門には「スキャンセンター」の設置を計画しております。



5. プリンタ (A4プリンタ 400台)

A4 プリンタは各外来診察室、病棟に整備し、各種診断書、診療情報提供書(紹介状)、同意書等患者さんへ提示する書式を出力します。



6. プリンタ (検体ラベルプリンタ 70台)

検体ラベルプリンタは各外来、病棟に整備し、検体検査ラベルを出力します。



7. リストバンドプリンタ 4台

リストバンドプリンタは、医事課入院事務室、救急センター事務室、循環器医療センター事務室、MFICUに設置されます。



8. PDA 80台

PDA (携帯情報端末) は病棟において看護師が注射実施、バイタル、食事量等の入力に使用します。

このようなハード構成となりますが、現在のオーダリングでは導入していない、画像診断モニター・PDA・スキャナ等により、診療に関わる周辺業務が変化します。

来年2月の稼働に向けて、11月5日から各部署や診療科毎に操作訓練を本格的に実施しております。職種により訓練方法や時間は異なりますが、4時間から10時間の訓練時間を予定しております。全職種のカリキュラムを作成し、周知しますので積極的に参加していただくよう協力願います。

### 電子カルテシステム関連の情報入手について

今回報告した機器の説明や電子カルテ運用フロー、操作マニュアル等を大学HPに掲載しております。下記よりアクセスしてください。

[岩手医大HP](#) → [教職員専用](#) → [学内限定情報ページへ](#) → [電子カルテ関係](#)

## 総合移転整備計画第二次事業進捗状況

# No.2

### 平成23年3月の完成に向けて順調な工事が行われています

矢巾キャンパスは11月4日現在、地上部の躯体工事も完了し、建物の大きさを実感できるようになりました。西講義実習棟では、外壁面の足場が解体され、間仕切り工事や天井工事、エレベーター工事などの施工が行われており、他施設についても内装工事と外壁の仕上げ工事が順調に行われています。

西講義実習棟（南西部から撮影）

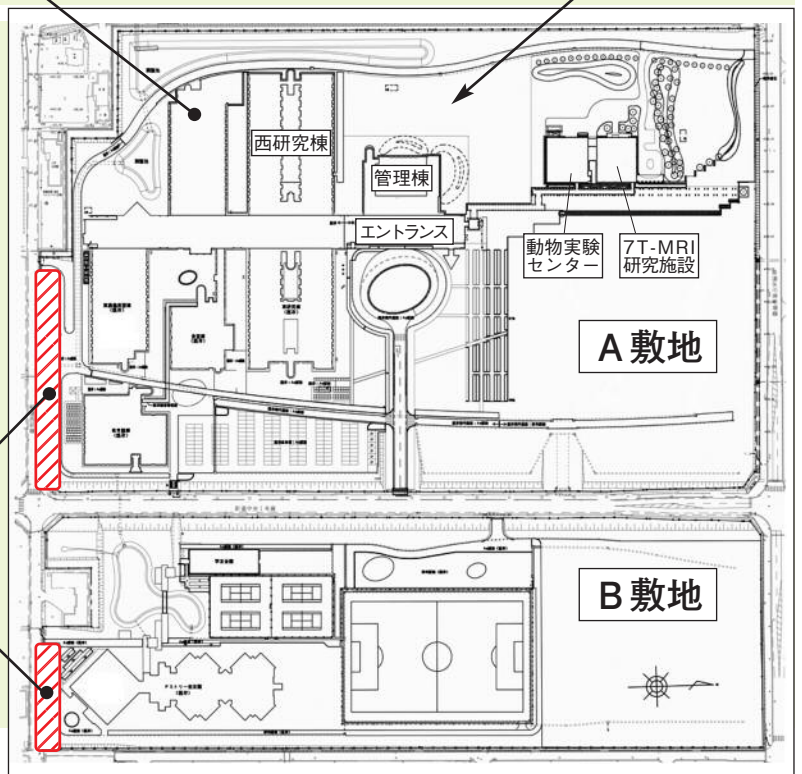


全景（北西部から撮影）



### 地球に優しい「太陽光発電システム」の一部導入

国際的な地球環境問題を踏まえて、大規模な消費電力を要する本学では「先進的なエコキャンパスづくり」を目指して、矢巾キャンパス敷地内（右図囲み部）に太陽光パネル（合計100KW）が計1,000㎡にわたり導入されます。（導入完了予定：平成23年2月末）

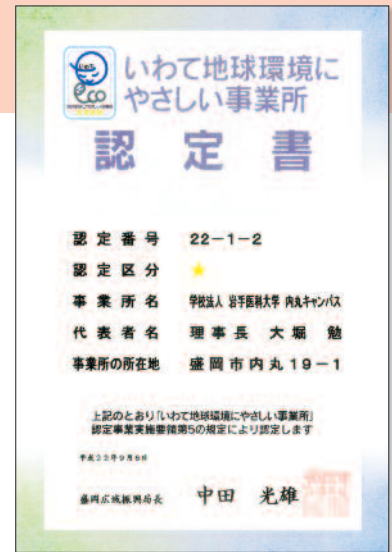


## 内丸キャンパスが「いわて地球環境にやさしい事業所」に認定される

平成22年9月6日(月)、本学の内丸キャンパスが「いわて地球環境にやさしい事業所」として認定を受けました。この認定制度は、地球温暖化対策の積極的な取り組みを広めていくことを目的として、岩手県が平成15年から実施しているもので、認定された事業所は、岩手県のホームページや広報誌等により、特に環境へ配慮している事業所として広く県民に紹介されることになります。

平成22年8月時点では、県内の155事業所が同認定を受けていますが、私立大学及び医療機関として認定を受けている事業所は本学内丸キャンパスのみです。

今回の認定は、省エネ推進委員会を中心とする本学の取り組みが評価されたものですが、職員におかれましては、引続き、電力等をはじめとした各種エネルギーの消費抑制に努めるようお願いします。



## 第53回岩手恵眼会総会が行われる



平成22年10月2日(土)午後1時から本学講堂(歯学部4階)において、岩手医大眼球銀行登録者の会である第53回岩手恵眼会総会が行われました。

総会には、岩手恵眼会の佐々木達人会長をはじめ、岩手医大眼球銀行総裁の小川彰学長ら約200名が出席し、献眼物故者に黙祷を捧げたほか、高橋事務局長から活動状況について報告がされました。

また、川久保病院名誉院長の渥美健三先生による「今泉亀撤先生とアイバンク」と題した講演が行われ、角膜移植の歴史と故今泉名誉教授の功績に関する講演に出席者が耳を傾けていました。

## 第43回動物慰霊祭が行われる

第43回動物慰霊祭が、平成22年10月7日(木)午後3時から報恩寺において小川学長をはじめとする本学関係者約50名のほか、医学部・歯学部の学生約150名が参列して厳かに執り行われました。

式では、昨年度実験に供された動物7,461霊に対して、遠山稿二郎動物実験センター長から慰霊のこたばが捧げられ、住職による読経に続いて参列者が焼香しました。

閉式後は、報恩寺内にある動物慰霊塔前で参拝が行われ(写真右)、医学・歯学のために貢献した動物の霊に対して感謝するとともに霊の安らかならんことを祈りました。



## 平成22年度第6回総合消防訓練が実施される



平成22年10月14日(木)午後2時30分から平成22年度第6回総合消防訓練が行われ、職員約50名が参加しました。

訓練では、西病棟6階家族控室からの出火を想定して、西病棟6階(出火階)・7階(直上階)を中心に通報・初期消火・避難誘導等一連の訓練を行いました。その後は東病棟屋上にて基礎訓練として消火器及び屋内消火栓の取扱訓練(写真左)を実施しました。

盛岡中央消防署員からは「火災発見時に行うことは①通報(消防署)、②消火、③避難誘導の3つです。消防用設備(消火器、屋内消火栓)は、普段から使えるように訓練を継続して行ってください。また、イメージトレーニングを行うことが大切です。訓練は良好でした。」と講評がありました。

## 表彰の栄誉

### 田邊 憲昌 助教 第23回日本顎関節学会学術大会 ポスター発表優秀賞を受賞

歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野の田邊憲昌助教が、平成22年7月24日に東京都で開催された第23回日本顎関節学会学術大会において、ポスター発表優秀賞を受賞しました。

受賞ポスターは、「日中のクレンジングに関する患者の自覚の信頼性について」です。現在、歯科界で大きな問題としてクローズアップされている日常生活上での顎口腔系の力のコントロールに関連する研究をまとめたものです。

冠橋義歯補綴学分野では携帯型筋電計を開発し、これまでに明らかとなっていなかった日常生活環境下での咀嚼筋の筋活動を測定し、日中のくいしばり習癖に関する研究を行ってきました。今回の研究成果はメカニズムの解明やストレスマネジメントへの応用につながるものと期待されます。



### 歯科衛生部 小野寺 奈津子 歯科衛生士 日本歯科衛生学会第5回学術大会 学術論文奨励賞を受賞



前列左から関根士長、小野寺さん、浪岡さん、  
後列左から米満教授、岸准教授

平成22年9月19日、20日に千葉県で開催された日本歯科衛生学会第5回学術大会において、歯科衛生部歯科衛生士の小野寺奈津子さんが「機器を用いた専門的舌清掃の有効性評価」で学術論文奨励賞を受賞しました。これは、口腔保健育成学講座口腔保健学分野の米満正美教授、岸光男准教授の指導の下、歯科衛生部で行っている研究の一部です。現在、呼吸器疾患の予防などを目的に多くの医療施設で口腔ケアが行われており、その評価指標の1つとして舌苔付着状況が着目されています。しかし、これまでプロフェッショナルケアによる舌清掃効果を検討した例がなく、今回の研究は歯面清掃用機器を専門的舌清掃に適用し、清掃条件の検討、手用ブラシを用いたセルフケアによる舌清掃効果との比較、両者の舌粘膜に対する刺激性の評価を行い、臨床応用への可能性を検討したものです。

# 新任教授の紹介

掲載項目は先生に回答いただいたものです。なお、②のタイトルが英文の場合は和訳して掲載しています。

所属名 歯学部総合歯科学講座  
総合歯科教育学・保存  
修復学分野

氏名 野田 守  
(のだ まもる)

生年月日 昭和40年5月12日  
兵庫県生まれ



## ①研究テーマ

- ・修復材料の生体親和性、細胞ストレスの少ない修復法の開発

## ②主な著書論文

- ・白金ナノコロイドはコンポジットレジン成分による細胞性ストレスを増大させる。(J Biomed Mater Res B, 2010, in press)
- ・コンポジットレジン重合時に生じるラジカルはヒト単球細胞のレドックス系に影響を与える。(J Biomed Mater Res 83A,123-129, 2007)
- ・コンポジットレジン成分は微量でもヒト単球細胞のストレスタンパク誘導に影響を与える。(J Dent Res, 81, 265-269, 2002)

## ③趣味・特技

- ・ゴルフ・ワイン・温泉

## ④教職員への自己PR

永住するのではないかとさえ思われた札幌を離れ、岩手・盛岡にお世話になることとなりました。

前任の大学では医科・歯科病院統合のもとで様々な経験や勉強をさせて頂きました。地域医療の苦渋、18歳人口の減少と医療系学校にとっても激動の時代となっています。本学の医・歯・薬とそろった素晴らしい環境で多方面の方々と協力連携しながら、ピンチをチャンスに変えていくことに少しでもお役に立つことができればと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

## ⑤経歴

- |          |                            |
|----------|----------------------------|
| 平成2年     | 北海道大学歯学部卒業                 |
| 平成6年     | 北海道大学大学院歯学臨床系専攻 修了（歯学博士）   |
| 平成6年     | 北海道大学歯学部附属病院・医員            |
| 平成9年     | 北海道大学歯学部附属病院・助手            |
| 平成10年    | 北海道大学歯学部・助手                |
| 平成12年    | 北海道大学大学院歯学研究科・助手（改組のため）    |
| 平成12年    | 文部省在外研究員・米国ジョージア州立医科大学（2年） |
| 平成16年    | 北海道大学病院・講師                 |
| 平成19年    | 北海道大学病院・講師（歯科診療センター・外来医長）  |
| 平成22年10月 | 現職                         |

## 「わんこそば大会」

研究助成課事務員 舘ヶ沢 淳

本学と昭和大学の人事交流の一環として、8月2日から8月4日にかけて、昭和大学財務部研究助成課より鈴木啓介さんがいらっしゃいました。

ご存知の通り昭和大学は東京都にあり、せっかく盛岡まで来て頂いたので盛岡名物を味わってほしい、また、昭和大学との親睦を深めていきたいとのことから、本学研究助成課と事務局有志にて「わんこそば大会」を開催しました。

盛岡名物「わんこそば」は大変有名ですが、盛岡にあってもなかなか参加できる機会は少なく、皆さん意気揚々と挑んでいました。

お給仕さんの「はい、どんどん」「はい、よいしょ」と、威勢のよい掛け声と共に、どんどん追加されるそ

ばと格闘すること1時間、皆さん満腹の様子でしたが、100杯以上食した猛者が13人中8人もおり、木製の証明手形まで頂いて、大変良い記念品となりました。

事務局と昭和大学の親睦を深める大変有意義なひと時でした。(ちなみに、昭和大学鈴木さんの記録は67杯でした。)



食後の一枚 (左列上の2番目が鈴木さん、3番目が筆者)

## 理 事 会 報 告

### ■ 9月定例 (9月27日開催)

- 平成23年度予算編成方針について  
総合移転整備計画に基づく附属病院移転の早期実現を見据えながら、移転資金の確保に向けた財政基盤を確立するとともに、教育・研究・医療活動が円滑に遂行出来るよう配慮し、教職員一丸となって可能な限り圧縮した予算を目指した予算編成をしていくこととした。
- 教育職員の人事について  
<任用>  
歯学部総合歯科学講座総合歯科教育学・保存修復学分野  
教授 野田 守  
(前北海道大学大学院口腔健康科学講座 講師)

### <昇任>

- 医学部形成外科学講座  
嘱託教授 柏 克彦 (前准教授)
  - 医学部心臓血管外科学講座  
准教授 猪飼 秋夫 (前嘱託准教授)
  - 医学部心臓血管外科学講座  
准教授 湊谷 謙司 (前講師)
  - 医学部内科学講座消化器・肝臓内科分野  
嘱託准教授 遠藤 昌樹 (前講師)  
(発令年月日 平成22年10月1日)
- 歯学部教育職員に係る定員表の一部改正について  
総合歯科学講座の総合歯科教育学分野と保存修復学分野の統合に伴う改正  
(施行年月日 平成22年10月1日)

### 第79回大学報編集委員会

日時：平成22年11月18日(木)午後4時～午後5時

出席委員：影山、松政、齋野、小山、佐藤、千田、米澤、赤松、佐々木(忠)、中島、岩動、武藤

### 編集後記

今月の表紙写真は10月18日撮影、フリーページの盛岡城跡公園の取材は10月下旬(右写真)、そして総合移転計画第二次事業の進捗状況<No. 2>の西講義実習棟の写真は11月4日のものです。毎月発行のメリットを活かして、今後もホットな話題を提供していきたいと存じますので、よろしく願いいたします。  
(編集委員 松政正俊)



### 岩手医科大学報 第410号

発行年月日 平成22年11月30日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

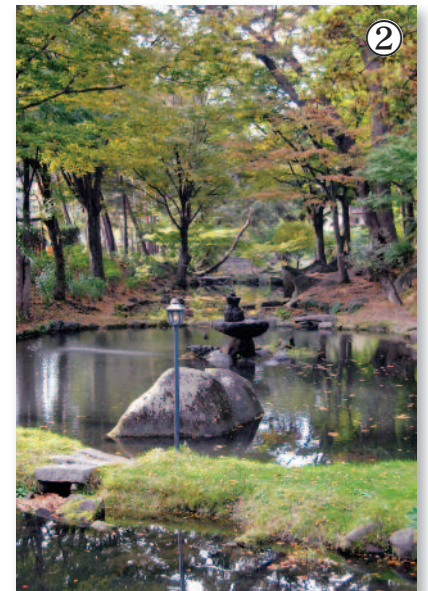
# 盛岡城跡公園(岩手公園)に歴史を訪ねて



本学が生まれ育った「内丸」は、江戸時代初期には高知衆こうちしゅうと呼ばれる重臣のみが住む地域であった。城内へは「御綱門」により通じ、そこから「三ノ丸」の東北部に位置する「烏帽子岩(本誌第405号, 2010年6月号 参照)」に至るまでが、現在の桜山神社参道となっている(①)。

城内を取り囲む堀の一部であった鶴ヶ池(②)を左手に進むと、かつて「御台所」と呼ばれた場所—現在の公園広場—に出る。広場中央まで進んで西側に連なる石垣をのぞむと、右手が三ノ丸、それより一段高い中央が「二ノ丸」、左手のさらに一段高い場所が「本丸」となる(③)。

本丸の東・南・西を取り囲む一段低い部分は「腰曲輪」くろわである(④)。現在は花見の名所であるが、南側の腰曲輪は馬場として使われていたという。腰曲輪西端の「吹上門」跡を通って下ると、教育会館を経て本学へと向かう通りに出る。このすぐ西側には現在は市街地が広がるが、当時は北上古川が南流していた。盛岡城は、北上川と中津川を自然の外堀とした要害堅固な城であったのである。



現在、本学のある内丸地区は平坦であるが、もともとは周囲を湿地や藪で囲まれた丘陵地であり、本丸と同程度の高さであったという。南部氏はこれを切り崩して城下としたが、上田の奥の沼沢からの水が問題となり、それをせき止めたのが「上田の堤」—現在の高松の池である(⑤)。